

【株式会社インターナショナルリー・ローカル】(沖縄県)

システム概要

- 植物工場において日照時間、温度、湿度、CO2濃度等を自動的にコントロール。照明は蛍光灯を使用。LEDは試験的に一部導入。



導入経緯・背景

- 社の理念である「気持ちいい世界をつくる」ためには安全・安心な食べ物を提供することが重要であり、そのためには安全な食べ物を安定して供給可能な植物工場が必要と考え、平成22年に施設を設立した。
- 沖縄は夏の暑さや台風の影響で、夏場は葉物野菜が品薄となることから、植物工場での周年供給が可能となれば販売上有利となる。また、観光地のためリゾートホテル等が多いことから、ホテル向けにも販売できるのではないかと考えた。さらに、アジア主要都市へのアクセスの利便性を活用し、海外への輸出もできるのではないかと考えた。

導入者コメント(効果・課題等)

- 施設面積は100㎡でアイスプラントやベビーリーフ等、20種類の野菜を栽培。
- 植物工場では栽培が難しい野菜を扱っており、栽培には作業員の細かい管理が必要。収穫までの日数は最短で17日~18日。長いもので2ヶ月程度。
- 無農薬・品質が安定している等の理由から販売は順調であり、新たな注文には応じ切れていない状況。このため、現在の工場の拡大を予定しているほか、新工場の建設も予定している。
- 販売先は地元のスーパー、飲食店が中心だが、首都圏のスーパーや香港向けにも出荷している。また、シンガポールへの出荷も検討している。
- ランニングコストは電気代と人件費がほとんど。特に電気料金が高いのがネック。
- LEDの導入については、コスト等を考えると厳しい。
- 電気料金が他の地域と比較すると割高のため、値下げを期待。
- 今後は、これまで蓄積してきた栽培技術、オペレーションノウハウ、経営実績を基にし、フランチャイズ展開と植物工場システム（設備とソフトウェア）の開発を目指す。